

経済倶楽部便り

◆東京◆ 2月に入り、新型コロナウイルス感染症問題が日夜報道されています。感染拡大期との指摘を考慮し、時限的に3月の倶楽部講演会では中止としました。ただ、予定されていた講演会は講師の座談を収録する形で5月号に掲載する予定です。そんな状況下、21日は毎日新聞特別報道部の大場弘行記者に公文書クライシスと題してご講演を頂きました。首相、政治家へのレクチャー資料やメールが公文書扱いにはならず、廃棄されていること。また、2001年の情報公開法の施行以降、公文書の隠ぺいなど情報公開に逆行する動きが拡大していることを具体例を

あげてお話し頂きました。4月号に掲載予定です。4月の講師は明治学院大学教授の熊倉正修氏、アシスト会長のビル・トッテン氏、山猫総合研究所代表の三浦瑠麗氏、富士通総研エグゼクティブ・フェローの早川英男氏を予定しています。

◆中部◆ 2月の講師は笹川平和財団上席研究員の渡部恒雄氏でした。米国からの帰国直後で、新型コロナウイルスについて「米国では日常生活は平穏。恐らく危機管理マニュアルがあり、それに沿って粛々と進めているのだろう。日本は逆で、危機管理マニュアルが明確でなく、混乱している印象だ」と話していました。

4月の講師は東洋英和女学院大学客員教授の中岡望氏とTBS「ニュース23」キャスターの星浩氏を予定しています。

(日暮良一)